

事務事業ID										部 長		課 長		係 長		担当者									
2279																									
令和04年度										事務事業マネジメントシート															
事務事業名										観光でにぎわう魅力づくり事業								担当課		産業部商工観光課					
政策体系	政 策		3		地域の魅力が輝くまちづくり						担当係		観光物産係												
	施 策		3		集客資源の創出と充実						事業区分	事業期間		H18		～									
	基本事業		1		地域資源を活かした魅力の向上							市単独事業・国県補助事業				市単独事業									
予算科目			会計		款	項	目	大 事 業						実施形態	全部委託										
			一般会計		7	1	4	観光物産振興事業費																	

【PLAN（計画）】			
目指すべき状態・アウトカム	最終	施策の目的	自然や歴史など本市固有の多彩な地域資源を活かした観光振興を推進し、市外から多くの人々と消費を市内へ引き込む。
		基本事業の目的	豊かな自然や優れた歴史的文化的遺産、地元特産品など、多彩な地域資源の可能性を最大限に引き出した本市ならではの魅力ある観光地づくりを推進します。
	中間	①対象（誰、何に対して行うか）	観光客
		②意図（どのようになることを目指すか）	伊達市に興味を持ち観光に訪れる
	初期	②①になるために必要な状態	観光客への受け入れ態勢の充実 観光PR

指標	区 分	指 標 名 (意図の達成度を表す指標)	単位	数値区分	29年度	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度
	アウトプット指標	観光入込客数	人	目標値	750,000	750,000	2,220,000	1,997,000	2,000,000	2,017,000
				実績値	662,370	2,231,986	1,943,314	1,707,811	1,840,557	2,017,960
	アウトプット指標	イベント参加数（PRの場合）	回	目標値	25	30	32	32	18	18
				実績値	29	32	31	18	10	20
				目標値						
				実績値						

【DO（実施）】			
活動・アウトプット	事業概要	観光客受入れ体制の強化を目的に、観光案内所及び観光ポータルサイト「だてめがね」の開設・運営を行う。また、観光誘客を促進していくために、地域資源を活用したイベントの開催や首都圏や仙台圏を中心に特産品のPRなどを行う。	
	主な活動	令和04年度実績（実施した主な活動） ①観光誘客推進 … 観光案内所及びレンタサイクル貸出管理、ポータルサイトの運営、周遊手帳 ②歴史観光プロモーション … 歴史観光ツアー実施 ③地域資源活用 … 霊山新緑まつり、紅葉まつり、霊山フォトコンテスト開催 ④特産品・6次化商品等プロモーション … 福島フェスタPRブース等への出展など ⑤レンタサイクル事業 … 市内5地域全域で運営開始 ⑥サイクリングアプリ … 市内10コースの造成と「レンタサイクルDE伊達市を満喫キャンペーン」を実施 ⑦梁川オープンスペースの維持管理 … 梁川総合支所庁舎2階の「やなピア」を運営管理	

現状把握

現状・インプット	事務事業を開始した理由		伊達市合併した平成18年より、伊達市の観光物産振興、観光イベントによる地域活性化、産品開発、伝統芸能の継承や伊達市への誘客促進に努めるなど地域経済活性化や交流人口の拡大を図ってきた。							
	根拠法令・要綱等				関連する個別計画					
	事務事業の現状（「対象」など事業開始からの変化）		平成30年3月に道の駅がオープンして以降、市内観光入込客が大幅に増加した。 令和2年度は全国的なコロナ禍の影響で、大型連休時期に道の駅などの市内観光拠点施設が臨時休館、通年で地域イベントが中止を余儀なくされたため、観光入込客数が減少した。 令和3年4月には相馬福島道路全面開通となるため、今後は道の駅から市内への誘客を図る必要がある。							
			年度単位	29年度 (実績)	30年度 (実績)	01年度 (実績)	02年度 (実績)	03年度 (実績)	04年度 (実績)	
	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0		0	0	0	4,250
			都道府県支出金	千円	0		0	0	0	0
地方債			千円	0		0	0	0	0	
その他			千円	0		0	0	0	240	
一般財源			千円	20,789	24,681	24,083	18,625	26,719	42,911	
事業費計			千円	20,789	24,681	24,083	18,625	26,719	47,401	

事務事業 ID	2279	事務事業 名	観光でにぎわう魅力づくり事業	所属 課	産業部商工観光課
------------	------	-----------	----------------	---------	----------

【**CHECK/ACTION**（振り返り評価・改革改善策）】

事業の評価 (目指すべき状態への 進捗度)	市が出資する法人と連携し、本市の地域資源や観光資源を活かした観光誘客の取り組みを進めている。 また、市内観光施設から自転車による周遊を図るため、レンタサイクル事業に取り組む。
課 題	新型コロナウイルス行動制限緩和により観光客数増加を見込んだ新たな観光コンテンツの創出が必要。 本市の魅力を体験できる自然や農業、産業を活かした体験型観光の充実を図る必要がある。
対 策	アフターコロナを見据え、オンライン観光や市内周遊の取り組みを拡充・連携させる。 果物狩り体験やイノ革体験、鉄道運転体験などの官民連携した体験型観光の充実を図る。

【評価結果】

総合評価	維持	今後の事業全体の 方向性やその 内容	・ 来訪者の移動手段として自転車を活用することで、各地域の観光拠点を基点に地域エリア内の回遊性を促進及び市内滞在時間の延長を図ることで地域活性化につなげる。またサイクリングアプリなど利用者の利便性向上を図る。 ・ 体験型観光商品の創出 ・ 伊達市の売りを何にしていけるのかPR方法の方向性を検討 ・ インバウンド対策
------	----	--------------------------	---

事務事業ID				部 長	課 長	係 長	担当者
1743							
令和04年度				事務事業マネジメントシート			
事務事業名				観光諸費	担当課	産業部商工観光課	
政策体系	政 策	3	地域の魅力が輝くまちづくり		担当係	観光物産係	
	施 策	3	集客資源の創出と充実		事業期間	H18	～
	基本事業	1	地域資源を活かした魅力の向上		市単独事業・国県補助事業	市単独事業	
予算科目		会計	款	項	目	大 事 業	
		一般会計	7	1	4	観光諸費	
				事業区分	実施形態	直 営	

【PLAN（計画）】			
目指すべき状態・アウトカム	最終	施策の目的	自然や歴史など本市固有の多彩な地域資源を活かした観光振興を推進し、市外から多くの人々と消費を市内へ引き込む。
		基本事業の目的	豊かな自然や優れた歴史的文化的遺産、地元特産品など、多彩な地域資源の可能性を最大限に引き出した本市ならではの魅力ある観光地づくりを推進します。
	中間	①対象（誰、何に対して行うか）	観光客
		②意図（どのようになることを目指すか）	観光拠点を訪れることにより、観光客が増える。
初期	②①になるために必要な状態	魅力ある観光パンフレット作成し、市内外・首都圏へPRする。	

指標	区 分	指 標 名 (意図の達成度を表す指標)	単位	数値区分	29年度	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度
	アウトプット指標	観光入込客数	人	目標値	750,000	750,000	2,220,000	1,997,000	2,000,000	2,017,000
				実績値	662,370	2,231,986	1,943,314	1,707,811	1,840,557	2,017,960
	アウトプット指標	イベント参加数（PRの場合）	回	目標値	25	30	32	32	18	18
				実績値	29	32	31	18	10	20
				目標値						
				実績値						

【DO（実施）】			
活動・アウトプット	事業概要	市の観光名所や特産品を県内外の方々にPRするため、観光パンフレットの作成や姉妹都市イベントに参加する。	
	主な活動	令和04年度実績（実施した主な活動） ・伊達市観光パンフレットや霊山登山マップ等を配布することでPR活動を実施した。 ・令和3年4月に相馬福島道路全線開通後の域内周遊促進のため、道の駅レンタサイクル等を起点とした相馬福島道路沿線地域の立ち寄りスポットや観光施設などを掲載したサイクリングマップを作成し、観光誘客を図った。	

現状把握

現状・インプット	事務事業を開始した理由		5町が合併し伊達市が誕生した平成18年から、当市の魅力を全国に発信するために開始された。						
	根拠法令・要綱等				関連する個別計画				
	事務事業の現状（「対象」など事業開始からの変化）		観光入込客数は、道の駅の開業により増加した。 新型コロナウイルス感染症の影響から、観光イベントや県外往来が難しいことから、新たな観光誘客事業の検討が必要。						
			年度	29年度	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度
			単位	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0		0	0	0	0
		都道府県支出金	千円	0		0	0	0	0
		地方債	千円	0		0	0	0	0
		その他	千円	0		0	0	0	0
		一般財源	千円	6,802	5,657	5,638	5,297	5,061	15,739
		事業費計	千円	6,802	5,657	5,638	5,297	5,061	15,739

事務事業 ID	1743	事務事業 名	観光諸費	所属 課	産業部商工観光課
------------	------	-----------	------	---------	----------

【**CHECK/ACTION**（振り返り評価・改革改善策）】

事業の評価 （目指すべき状態への 進捗度）	市が出資する法人と連携し、本市の地域資源や観光資源を活かした観光誘客の取り組みを進めている。 また、市内観光施設から自転車による周遊を図るため、レンタサイクル事業に取り組み、次年度から全市展開を図る。
課 題	新型コロナウイルス感染拡大に伴い、イベント出展数が減少している。今後オンライン観光など自宅でも伊達市の魅力をPRできるような仕組みづくりが必要。 本市の魅力を体験できる自然や農業、産業を活かした体験型観光の充実を図る必要がある。
対 策	アフターコロナを見据え、オンライン観光や市内周遊の取り組みを拡充・連携させる。 果物狩り体験やイノ革体験、鉄道運転体験などの官民連携した体験型観光の充実を図る。

【評価結果】

総合評価	維持	今後の事業全体の方向性やその内容	観光という目線だけではなく、「伊達市」を全国へPRするためにも、効果的なPR方法の検討を進める。
------	----	------------------	--

事務事業ID										部 長		課 長		係 長		担当者	
1760																	
令和04年度										事務事業マネジメントシート							
事務事業名				観光誘客促進事業						担当課		産業部商工観光課					
政策体系	政 策		3	地域の魅力が輝くまちづくり						担当係		観光物産係					
	施 策		3	集客資源の創出と充実						事業区分	事業期間		H27		～		
	基本事業		1	地域資源を活かした魅力の向上							市単独事業・国県補助事業				市単独事業		
予算科目				会計		款	項	目	大 事 業		実施形態	一部委託					
				一般会計		7	1	4	観光物産振興事業費								

PLAN（計画）

目指すべき状態・アウトカム	最終	施策の目的	自然や歴史など本市固有の多彩な地域資源を活かした観光振興を推進し、市外から多くの人々と消費を市内へ引き込む。		
		基本事業の目的	豊かな自然や優れた歴史的文化的遺産、地元特産品など、多彩な地域資源の可能性を最大限に引き出した本市ならではの魅力ある観光地づくりを推進します。		
	中間	①対象 （誰、何に対して行うか）	市民・市への来訪予定者・来訪者	②意図 （どのようになることを目指すか）	伊達市に興味や関心を持ち観光に来訪する
	初期	②①になるために必要な状態	・魅力あるイベント等を提供し、市内に観光客を誘客する。		

指 標	区 分	指 標 名 (意図の達成度を表す指標)	単位	数値区分	29年度	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度
	アウトプット指標	観光入込客数	人	目標値	750,000	750,000	2,220,000	1,997,000	2,000,000	2,017,000
				実績値	662,370	2,231,986	1,943,314	1,707,811	1,840,557	2,017,960
	アウトプット指標	イベント参加数（PRの場合）	回	目標値	25	30	32	32	18	18
				実績値	29	32	31	18	10	20
				目標値						
				実績値						

【DO（実施）】							
活動・アウトプット	事業概要	本市の観光資源を磨き上げ、多くの来訪者に本市の魅力を知らせるとともに、新たな観光誘客事業を行う。					
	主な活動	令和04年度実績（実施した主な活動） ・伊達市へのマイクロツーリズム（主に仙台圏からの短期宿泊旅行、日帰り旅行）需要を喚起するため、仙台タウン誌や県内タウン誌に観光PR記事を掲載 ・伊達市観光PRアニメ「政宗ダテニクル」公式SNSによる情報発信 ・アニメ聖地を活用した回遊性向上事業として、聖地を訪れた際にアニメキャラクター等と写真撮影ができる「ARダテニクル」アプリの運用実施					

現状把握

現状・インプット	事務事業を開始した理由		平成26年度のふくしまDCに併せて、市内への誘客効果を図る目的で開始された。更に、平成27年度からは本市固有の地域資源である「伊達氏発祥の地」とした歴史観光について、従来の歴史ファンだけでなく、幅広い世代に発信するためにアニメ「政宗ダテニクル」を6話まで制作。						
	根拠法令・要綱等				関連する個別計画				
	事務事業の現状（「対象」など事業開始からの変化）		名峰霊山や伊達家ゆかりの歴史資源を活用した観光誘客を行ってきたが、平成27年アニメを活用したアニメツーリズムにも取り組んだ。 コロナの影響からアフターコロナを見据えた観光誘客事業が必要。						
			年度	29年度	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度
			単位	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0		0	0	0
都道府県支出金			千円	4,800	5,278	6,034	0	0	0
地方債			千円	0		0	0	0	0
その他			千円	0		0	0	0	0
一般財源			千円	27,495	9,181	3,794	3,617	2,332	1,871
事業費計			千円	32,295	14,459	9,828	3,617	2,332	1,871

事務事業 ID	1760	事務事業 名	観光誘客促進事業	所属 課	産業部商工観光課
------------	------	-----------	----------	---------	----------

【**CHECK/ACTION**（振り返り評価・改革改善策）】

事業の評価 （目指すべき状態への 進捗度）	東北中央自動車道の全線開通により宮城県からの来訪者増加を見込み、宮城県内の情報誌を活用し、伊達市の観光PRを図った。 また、政宗ダテニクルを活用したARアプリの運用及び撮影場所の追加を図り、アニメ聖地を活用した回遊性向上に取り組んだ。
課 題	新型コロナウイルス行動制限緩和により観光客数増加を見込んだ新たな観光コンテンツの創出が必要。
対 策	コロナ禍においても伊達市の魅力を発信するオンライン観光やARアプリの取り組みを拡充し、アフターコロナを見据えた取り組みを実施する。

【評価結果】

総合評価	維持	今後の事業全体の方向性やその内容	「伊達市ぐるっとパスポート」「サイクルツーリズム」「ARダテニクルアプリ」といった市内回遊事業の取り組みを連携し、観光客を回遊させる。
------	----	------------------	---

事務事業ID				部 長	課 長	係 長	担当者
1764							
令和04年度				事務事業マネジメントシート			
事務事業名				担当課	未来政策部霊山総合支所		
政策体系	政 策	3	地域の魅力が輝くまちづくり		担当係	地域総務係	
	施 策	3	集客資源の創出と充実		事業期間	～	
	基本事業	2	観光客の受入体制の充実		市単独事業・国県補助事業	市単独事業	
予算科目		会計	款	項	目	大 事 業	
		一般会計	7	1	4	りょうぜん紅彩館管理運営費	
				事業区分	実施形態	指定管理	

【PLAN（計画）】			
目指すべき状態・アウトカム	最終	施策の目的	自然や歴史など本市固有の多彩な地域資源を活かした観光振興を推進し、市外から多くの人々と消費を市内へ引き込む。
		基本事業の目的	豊かな自然や優れた歴史的文化的遺産、地元特産品など、多彩な地域資源の可能性を最大限に引き出した本市ならではの魅力ある観光地づくりを推進します。
	中間	①対象（誰、何に対して行うか）	りょうぜん紅彩館の利用者
	初期	②①になるために必要な状態	りょうぜん紅彩館の利用客に満足してもらう
りょうぜん紅彩館の管理及び施設修繕			
1. 紅彩館指定管理料			
2. 施設修繕費			
令和04年度実績（実施した主な活動）			
「りょうぜん振興公社」と令和4年度から令和6年度までの基本協定締結を行い、年度協定を締結し委託料の支払・施設の維持管理修繕・指定管理者との連絡調整を行った。			
指定管理によりりょうぜん紅彩館の適正管理と地域物産の展示販売を行うとともに、紅彩館のPRと利用者の拡大を図った。			

指標	区 分	指 標 名 (意図の達成度を表す指標)	単位	数値区分	29年度	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度
	アウトカム指標	利用者数	人	目標値	13,000	13,000	13,000	14,000	14,000	14,000
				実績値	12,754	13,738	12,820	9,296	12,329	14,064
	アウトカム指標	市外からの宿泊者数	人	目標値	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000
				実績値	1,495	1,371	1,058	343	588	1,195
				目標値						
				実績値						

DO（実施）	
活動・アウトプット	事業概要
	りょうぜん紅彩館の管理及び施設修繕
	1. 紅彩館指定管理料 2. 施設修繕費
活動・アウトプット	主な活動
	令和04年度実績（実施した主な活動）
	「りょうぜん振興公社」と令和4年度から令和6年度までの基本協定締結を行い、年度協定を締結し委託料の支払・施設の維持管理修繕・指定管理者との連絡調整を行った。 指定管理によりりょうぜん紅彩館の適正管理と地域物産の展示販売を行うとともに、紅彩館のPRと利用者の拡大を図った。

現状把握

現状・インプット	事務事業を開始した理由		霊山に観光や登山に来て、麓に宿泊休憩施設がなかったことから、平成12年に施設の整備を図った。地元農産物の宣伝販売、農業体験、自然資源を活用して都市との交流を図ることを目的として建築した。							
	根拠法令・要綱等			関連する個別計画						
	事務事業の現状（「対象」など事業開始からの変化）		地元の同級会や登山後の入浴ができることで喜ばれている。シーズン中の予約希望に対し、客室が少ないため対応できない。放射線の影響と風評被害で一般客の利用者は激減したが現在は回復基調にある。施設老朽により頻繁な修繕を行っている。							
			年度単位	29年度 (実績)	30年度 (実績)	01年度 (実績)	02年度 (実績)	03年度 (実績)	04年度 (実績)	
	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	0
			都道府県支出金	千円	0	0	0	0	0	0
地方債			千円	0	0	0	0	15,100	12,800	
その他			千円	0	2,484	0	2,860	5,300	0	
一般財源			千円	22,594	22,445	28,379	27,417	12,613	23,688	
		事業費計	千円	22,594	24,929	28,379	30,277	33,013	36,488	

事務事業 ID	1764	事務事業 名	りょうぜん紅彩館運営事業	所属 課	未来政策部霊山総合支所
------------	------	-----------	--------------	---------	-------------

【**CHECK/ACTION**（振り返り評価・改革改善策）】

事業の評価 (目指すべき状態への 進捗度)	りょうぜん振興公社に指定管理により管理を委託して、霊山という自然環境を活用し、施設管理や事業を実施することにより効率的に運営されている。 全国旅行支援による利用者の増加があった。
課 題	①事業評価については、理事として支所長が逐次運営を評価しているものの事業評価書として書類上の点検確認及び次年度への反映がされていない。 ②開設以来19年を経過していることから施設の老朽化が目立つ。また、利用者は高齢化が目立ち食事スタイルも椅子利用を要求されていることからその対応が喫緊の課題である。
対 策	①事業評価について、マニュアルを作成し実施する。 ②老朽箇所の再確認とともに先回り修繕化を行う。高齢用者に対応できる椅子と机を導入する。

【評価結果】

総合評価	維持	今後の事業全体の方向性やその内容	伊達市の観光の目玉である「霊山」の麓にある宿泊・休憩施設であり、今後とも継続して管理運営に努める。 施設もバリアフリーも含め、改修の必要がある。
------	----	------------------	---

事務事業ID				部 長	課 長	係 長	担当者
1457							
令和04年度				事務事業マネジメントシート			
事務事業名				担当課	未来政策部霊山総合支所		
政策体系	政 策	3	地域の魅力が輝くまちづくり		担当係	地域総務係	
	施 策	3	集客資源の創出と充実		事業期間	～	
	基本事業	2	観光客の受入体制の充実		市単独事業・国県補助事業	市単独事業	
予算科目		会計	款	項	目	大 事 業	
		一般会計	3	2	4	霊山こどもの村管理費	
				事業区分	実施形態	指定管理	

PLAN（計画）

目指すべき状態・アウトカム	最終	施策の目的	自然や歴史など本市固有の多彩な地域資源を活かした観光振興を推進し、市外から多くの人々と消費を市内へ引き込む。		
		基本事業の目的	豊かな自然や優れた歴史的文化的遺産、地元特産品など、多彩な地域資源の可能性を最大限に引き出した本市ならではの魅力ある観光地づくりを推進します。		
	中間	①対象 （誰、何に 対して 行うか）	こどもの村来園者	①意図 （どのよう になること を 目指すか）	施設を利用し体験活動を楽しむ。 こどもの村自主事業（ワークショップ）に参加し、物事への関心を深める。
	初期	②①になる ために 必要な状態	こどもの村園内の施設を良好な状態に保つ こどもの村への来園者に楽しんでもらい、子どもの健全育成に役立てる。		

指標	区 分	指 標 名 （意図の達成度を表す指標）	単位	数値区分	29年度	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度
	アウトカム指標	来園者数（人）	人	目標値	21,000	21,000	21,000	21,000	21,000	21,000
				実績値	29,224	29,795	27,896	17,957	24,151	30,316
	アウトプット指標	自主事業（ワークショップ）参加者数	人	目標値	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
				実績値	9,928	7,801	7,822	8,045	9,895	13,047
				目標値						
				実績値						

【DO（実施）】		事業概要	◎霊山こどもの村にかかる管理および整備 指定管理料 施設修繕費
活動・アウトプット	主な活動	令和04年度実績（実施した主な活動）	
		「りょうぜん振興公社」と令和４年度基本協定を締結し委託料の支払・施設の維持管理修繕・指定管理者との連絡調整を行った。 指定管理により霊山こどもの村の適正な管理を行った。	

現状把握

現状・インプット	事務事業を開始した理由		霊山という自然環境の豊かなところで、子どもたちにのびのび楽しんでもらうために昭和47年に施設整備を図り、充実拡張に努力をしてきた。子ども育成に貢献している。						
	根拠法令・要綱等				関連する個別計画				
	事務事業の現状（「対象」など事業開始からの変化）		県立自然公園の中で、子どもたちを遊ばせることができ、小学校の野外学習などにも利用されている。原発事故による放射能の影響で来園者が極端に減少したが回復基調にある。小さな子どもを連れて行くにはまだまだ不安があるとの声もいまだ大きい。 開設以来４６年を経過していることから子どもたちを受け入れる施設の老朽化が目立つ。霊山高原構想のスタートアップ事業として「子どもの物語ミュージアム」建設を進めてきたが議会の反対によりリニューアルに転換した。						
			年度	29年度	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度
			単位	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0
都道府県支出金			千円	0	0	0	0	0	0
地方債			千円	0	0	0	0	16,900	12,600
その他			千円	56	56	8	6,933	3,178	18,514
一般財源			千円	27,062	26,920	31,477	32,244	21,416	20,548
事業費計			千円	27,118	26,976	31,485	39,177	41,494	51,662

事務事業 ID	1457	事務事業 名	霊山こどもの村管理・施設整備事業	所属 課	未来政策部霊山総合支所
------------	------	-----------	------------------	---------	-------------

【**CHECK/ACTION**（振り返り評価・改革改善策）】

事業の評価 (目指すべき状態への 進捗度)	りょうぜん振興公社に指定管理により管理を委託して、霊山という自然環境を活用し、施設管理や事業を実施することにより効率的に運営されている。
課 題	事業評価については、理事として支所長が遂次運営を評価しているものの事業評価書として書類上の点検確認及び次年度への反映がされていない。
対 策	事業評価について、マニュアルを作成し実施する。

【評価結果】

総合評価	維持	今後の事業全体の方向性やその内容	伊達市の観光施設であり、今後とも適正な管理運営に努める。こどもの村のリニューアル事業により、園内設備が更新されたことから、利用者数の増加が望まれる。
------	----	------------------	--

事務事業ID							部 長		課 長		係 長		担当者		
2583															
令和04年度							事務事業マネジメントシート								
事務事業名				道の駅管理運営事業				担当課		産業部商工観光課					
政策体系	政 策		3	地域の魅力が輝くまちづくり				担当係		観光物産係					
	施 策		3	集客資源の創出と充実				事業区分	事業期間		平成30年度		～		
	基本事業		2	観光客の受入体制の充実					市単独事業・国県補助事業			市単独事業			
予算科目			会計		款	項	目	大 事 業			実施形態			指定管理	
			一般会計		7	1	4	道の駅管理運営事業							

【PLAN（計画）】			
目指すべき状態・アウトカム	最終	施策の目的	自然や歴史など本市固有の多彩な地域資源を活かした観光振興を推進し、市外から多くの人々と消費を市内へ引き込む。
		基本事業の目的	豊かな自然や優れた歴史的文化的遺産、地元特産品など、多彩な地域資源の可能性を最大限に引き出した本市ならではの魅力ある観光地づくりを推進します。
	中間	①対象（誰、何に対して行うか）	道の駅利用者
	初期	②①になるために必要な状態	指定管理者である一般社団法人りょうぜん振興公社を中心に市が協力し、イベント等により集客を図り、市の魅力をPRする。さらに、道の駅から市内の観光拠点へお客様を誘導する。

区 分	指 標 名 (意図の達成度を表す指標)	単位	数値区分	29年度	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度
指 標	アウトプット指標	道の駅来客数	人	目標値	45,000	540,000	1,510,000	1,290,000	1,303,000
				実績値	77,936	1,503,342	1,261,694	1,197,874	1,309,990
	アウトプット指標	出店・納品者数	人	目標値	220	220	230	240	240
				実績値	225	225	240	248	260
				目標値					
				実績値					

【DO（実施）】			
活動・アウトプット	事業概要	一般社団法人りょうぜん振興公社が指定管理者となり道の駅「伊達の郷りょうぜん」を運営しており、市と協定を結んでいる。 道の駅は、24時間利用できる駐車場・トイレなどの「休憩施設機能」の他、レストランや市の物産の販売やイベント等を行い市の特色や個性をPRしている。	
	主な活動	令和04年度実績（実施した主な活動） ・ ゴールデンウィークスペシャルフェスタ開催（4/29） ・ りょうぜんスイーツフェア開催（6/11） ・ 2022 伊達の桃フェア & 桃の挽ぎ取り体験 in 小国開催（7/16～8/28） ・ 宮城県 女川港まつり参加（7/23） ・ 道の駅空まつり参加（9/10） ・ ふくしまフェスティバル at 名古屋2022参加出店（11/23） ・ 伊達鶏フェア（1/28～2/5） ・ 道の駅5周年記念感謝祭（3/18～3/19）	

現状把握

現状・インプット	事務事業を開始した理由		相馬福島道路を活用した賑わいの拠点づくり						
	根拠法令・要綱等		地方自治法第244条の2第3項 伊達市公の施設の指定管理者の指定の手続等に関する条例		関連する個別計画				
	事務事業の現状（「対象」など事業開始からの変化）		想定入込客数は年間54万人としていたが、H30年3月の事業開始後から190日目で100万人を突破し、H30年度の実績は150万人を超えた。R元年度は126万人利用、R2年度は新型コロナ禍での臨時休業や短縮営業を余儀なくされたが、前年度並みの119万人利用となった。						
			年度	29年度	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度
			単位	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円		0	0	0	0
都道府県支出金			千円		0	0	0	0	0
地方債			千円		0	0	0	0	0
その他			千円		4,104	1,888	1,900	1,700	1,300
一般財源			千円		74,693	64,761	62,749	56,550	60,926
事業費計			千円		-	78,797	66,649	64,649	58,250

事務事業 ID	2583	事務事業 名	道の駅管理運営事業	所属 課	産業部商工観光課
------------	------	-----------	-----------	---------	----------

【**CHECK/ACTION**（振り返り評価・改革改善策）】

事業の評価 (目指すべき状態への 進捗度)	道の駅伊達の郷りょうぜんは、年間130万人以上が利用する本市を代表する集客施設となり、市内観光周遊や地域の賑わいの拠点、市産品のPR・販売の場として定着した。指定管理者においても、地域との連携イベントや季節ごとのイベント、商品開発などを積極的に行って誘客に努めている。 本年度、新型コロナウイルス感染症の拡大より、イベント開催数も減少したが、各種フェアや5周記念感謝祭等を実施し入れ込み客数増加の推進に努めた。
課 題	令和3年4月の相馬福島道路全線開通に伴い、「道の駅に立ち寄ってもらう」ための仕掛けづくりを検討する必要がある。 道の駅を市内回遊の拠点として、相馬福島道路を活用した市内回遊、滞在時間の延伸、観光消費の拡大に繋げるかが課題。
対 策	今後は道の駅における取組の強化が必要であり、新商品の開発や交流都市並びに他の道の駅とのネットワークを活用した物販の強化、季節ごとのイベントの充実、さらには、いちご狩り体験や桃狩り体験などの体験メニューなどの伊達の郷りょうぜんの強みを積極的にPRし、利用者増加を図っていきたい。

【評価結果】

総合評価	維持	今後の事業全体の方向性やその内容	・道の駅オリジナルの商品開発。 ・いちご狩り体験や桃狩り体験などの体験メニューの実施による本市への観光誘客と魅力発信のPRを実施。 ・交流都市等と連携したイベントの実施 ・道の駅からの市内周遊や滞在時間の延伸につながる仕掛けとして、レンタサイクル実施や観光周遊手帳の利用促進に取り組む ・道の駅周辺のいちご狩りや桃狩りを活用した体験型観光商品の創出
------	----	------------------	--